

時空をこえて

とき

貴重書の世界

仙台府学養賢堂図 (せんだいふがくようけんどうず)

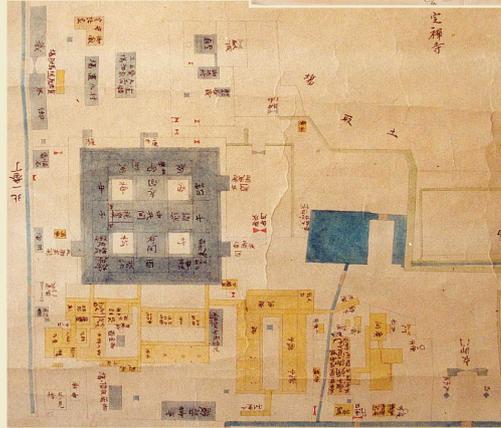
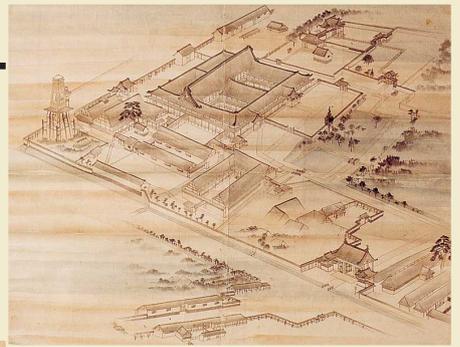
江戸時代に入り、世の中が平穏になってくると、諸藩は藩士の子弟に文武両道の教育を施す藩校(学校)を作るようになった。

仙台藩の藩校は「養賢堂(ようけんどう)」と呼ばれる。五代藩主伊達吉村の時、元文元年(1736)に仙台北下北三番丁の一角にある武家屋敷をもとにして開いたのが起源という。その後、宝暦10年(1760)に北一番丁勾当台(こうとうだい)通り、すなわち現在県庁のある付近の地に移転となった。

さらに、文化14年(1817)頃には校舎の大拡張工事などが行われ、藩校養賢堂は大いに充実し、発展していった。

写真はその養賢堂の図である。2幅の「軸もの」から成り、彩色されている。平面図には、建物やその内部の名称などが記され、側面図には建物の様子などが絵画のように描かれている。

図を見つめていると、勉学や武芸にいそしんだ当時の諸生(生徒)の姿や声がこちらに迫ってくるような気にさせられる。



仙台府学養賢堂図

- ▲ 上 側面図 (51 × 64cm)
- ◀ 下 平面図 (部分)

わたしのこの一冊

My Favorite Book

『東北婆っば烈伝』

長田洋子ほか著 北燈社 2000年

心の光放つ「婆っば」の人生 仙台市 黒田 四郎

今年(2000年)は21世紀の最初の年。私たちはこれからの人生を有意義に過ごそうと考えたりするものだが、これにふさわしい本が、昨年、出版された。仙台の長田洋子さんと、郡山の三田公美子さん共著の『東北婆っば烈伝』である。

この本は新潟を加えた東北7県で、社会活動に情熱を傾け、会社経営に活躍した女性の方々の素晴らしい人生記録である。

「婆っば」とは、福島県や宮城県で「おばあさん」のことを言い、親しみと敬意を込めた言葉で、「烈伝」は本来「列伝」だが、その潔い生き方から烈伝としたと著者は書いている。

烈伝の方々には人生哲学がある。ある方は「一つの事がどうしてもできなくてもこつこつと頑張っていると、ある時、突然できるようになる」と。

また、心温まる感動的な話もある。ある旅館の女将が、増築を担当した老棟梁とその奥さんを2泊3日で招待した。その時、老棟梁は女将にこう申し出たという。「14歳で見習いとなり、57年間に1千万円貯まった。あなたならきっと生かせる。私の1千万を使ってくれないか」。

私は、烈伝の方々が大変いい顔で、美しい心の光を放っておられるから、21世紀の初頭にふさわしい本だと思った。

このコーナーへの原稿(500字程度)を募集しています。あて先は図書館だより係。

図書館 Q & A

Q 展示室では、どのような企画展が計画されているのですか。

A 今年は本館開館120年にあたり、これを記念して6月から8月まで企画展『青柳文庫展』を開催する予定です。青柳文庫は江戸時代、青柳文蔵(あおやぎ・ぶんぞう/1761-1839年)が自分の蔵書と維持費を仙台藩に献じて、天保2年(1831)に開設された文庫です。庶民にも利用が認められ、藩が運営にあたったことから、公共図書館のさきがけともいわれています。その蔵書の一部は本館に引き継がれました。

なお、常設展として「本と人の文化史」を中心に、『坤輿万国全図(こんよばんこくぜんず)』(国指定重要文化財)など、学術的にも価値の高い本館所蔵の貴重資料等を公開しています。

このコーナーへのご質問は、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ、はがきで図書館だより係までお寄せください。



表紙エッセイ / 辺見 庸さん

へんみ・よう。作家。1944年宮城県石巻市生まれ。早稲田大学文学部卒。共同通信社に入社、北京特派員、ハノイ支局長、外信部長、編集委員等を経て1996年退社。1978年中国報道で日本新聞協会賞受賞。1991年『自動起床装置』で芥川賞受賞。1994年『もの食う人びと』は90万部を越すベストセラーとなり、講談社ノンフィクション賞、JTB紀行文学大賞等を受賞。他に『ハノイ挽歌』『不安の世紀から』『目の探索』等、著書多数。

図書館からのお知らせ

「県庁文書」(明治・大正・昭和期の県関係の公文書)は、今年の4月21日開館予定の「宮城県公文書館」(仙台市宮城野区の旧県図書館跡)に移管されました。

「インターネットでの蔵書目録検索」は、準備中です。詳しくはホームページ等でお知らせします。

4月からレストラン「サルーサ」(1F)がオープンします。

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第8代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889~1891年刊行)に由来する。

第7号 2001年3月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目1番地1
TEL022-377-8441(代表) FAX022-377-8484
ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/library>

デザイン/印刷 株式会社共同印刷

本誌は、再生紙を使用しています。